

# 「区における行政への参加の考え方」検討の方向性に関する説明会 区民会議委員経験者からの主な意見（川崎区）

## 1 開催状況

- (1) 日 時 令和2年12月21 日(月) 18:30～19:55
- (2) 会 場 川崎区役所7階第1・2会議室
- (3) 参加者 13名

## 2 実施概要

1. 開会  
井川区政推進課長から挨拶した。
2. 「区における行政への参加の考え方」検討の方向性の説明  
配布資料に沿って、説明した。
3. 質疑応答  
質問・発言を希望の方に、挙手及びご発言していただき、意見交換した。
4. 閉会

## 3 意見交換の内容（要旨）

- (1) ソーシャルデザインセンター（以下、「SDC」という。）はどういうものなのか。

区民会議で良かったことは、7区それぞれ特性があるが、区の特性に基づいて、議論を進めて来たことだと思う。区民会議を通じて、色々な人に出会えたのが一番良かった。今回、手法が色々示されているが、区民会議の成果や特性が、どう活かされているのか。

（市民文化局協働・連携推進課）

これまでの区民会議が担ってきた機能を2つに整理して、SDCは、市民が主体的に活動し、課題解決することを後押しする装置（機関）である。今の複雑化、多様化している地域課題に対して、行政の施策の方でしっかりとやらないといけない部分はあるが、柔軟かつ速やかに対応するには、市民の力を活かし、課題解決に結びつけるような機能が必要という形で、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の中で整理している。具体的には、例示として、資金支援、活動支援、人材育成、様々な地域で抱えている悩みごとの伴走支援を概念として考えている。

(市民文化局区政推進課)

SDCは、色々説明しても、実態がないのでわかりづらいと思うが、これも同時並行で進めている。これまで中間支援組織とっていたものを、発展的にかえて、地域をつないでいくというようなイメージを持っている。

ご指摘のとおり、手法のあり方について、今議論しているところである。これまでの区民会議の成果を否定するものではないが、一方、課題もあり、6期12年やってきたが、条例で期間として定められていることから、どんなにやりたくても、20人の方しかできない、2年という形で区切られてしまっていた。

こういったことについては、今までの手法では解消できない部分があったことや、また、関わっている人以外には、知られていなかった部分があった。それをもう少し多くの方に関わっていただく機会としていきたい。

それぞれのテーマに適したやり方を考えており、7区一律ではなく、これからもう少し議論を深めていく。2年間の試行は、何か1つの形を決め打ちするのではなく、色々積み重ねていく2年間としていきたい。自治基本条例の中で、区の行政を進めていく上で、このような取組が必要と定めているので、ある意味では職員に義務化をしていくということを含めて、考えている。

- (2) 意見したことが、どのように結果に変わるのかということに関心がある。意見を聞くのは良いが、誰が解決の取組に落としていくのか。区民会議は、20人が責任を持って、問題を挙げて、自分たちで議論してやっていた。しくみが大切だと思う。

(市民文化局区政推進課)

具体的などころは、詰めきれていないところである。ご指摘のところは、同じ認識で、大事なところだと思っている。手法によると思っているが、もう少し詰める時間をいただきたい。こういった事例であれば、こうやって反映していきいたいというような具体的な例を区役所とも意見交換しながら、作っていきたい。

- (3) SDCについて、説明を聞いても、よくわからない。課題を考えて、決める人は誰か。

(市民文化局協働・連携推進課)

課題を誰が見つけて、判断するのかというと、身近な課題として感じ取っている一人一人の市民だと考えている。SDCや新しい参加の場で課題選定をすることもなくはないが、基本は、市民が感じている課題が最初に入るものであると感じている。

運営主体は、行政の中の組織ではなく、行政の外にある。SDCは、行政と市民の間の中間支援組織のようなものを想定している。市域レベルで中間支援をやっている市民活動センターがあるが、わかりやすく言うと、それが区ごとにあるようなイメージである。

(市民文化局区政推進課)

SDCと区における行政への参加は分けて考えている。SDCは、活動の場である。参加の場というのは、それとは別に行政として、参加の場を設けていく。

これまでの区民会議は、2年間の中で、1年間の半分くらいを使って、課題を決めるのに

時間を使っていた。これもすごく大事なことはあるが、振り返ってみた時に、2年間の中でそこまでやってしまうと本当に良かったのかという意見もあり、行政から課題を示してくれればというような意見もあった。

課題の設定は難しく、行政から示すだけでなく、地域の皆さんの意見を拾い上げて、どうやってセットしていくかというのが、これからの具体的な課題の1つである。

- (4) 区民の課題を行政が吸い上げるのではなく、SDCが拾い上げるのか。

(市民文化局区政推進課)

そういうこともある。まだ、川崎区にSDCがないので、これから動いていった時に、SDCが課題を拾い上げて、意見交換の場に持っていくというパターンもあると思う。

- (5) 課題を吸い上げてくれないと、区民の意見は通らないと思う。

(市民文化局区政推進課)

区民の皆さんの意見を、意見交換の場に持ってくるのに、ルートは1つではないと思っているので、どういうところが良いか、悩ませていただきたい。

- (6) 生活の利害に関係することを課題とすることで、色々な意見が出た。そこから参加して、より生活環境が良くなるということを念頭に置いている。SDCは、行政が果たさないとできないと思うが、つながりのために惜しみなく参加し、お互いに協力していくことが大切。

(市民文化局区政推進課)

川崎区には、川崎区にあった取組の進め方があると思うので、単に主張したり、ものを申ししたりするのではなく、一定、行政がしっかりと責任と行動を取りながら、取組を進めることは大事である。

生活環境の改善をどうつなげていくかというのも、大きな意見だったと思うので、検討していきたい。

- (7) 区民会議の良さを再認識したい。放置自転車の問題を区民会議で扱ったが、放置自転車が整理されて、自転車の通行帯ができて、駐輪場ができた。これは、すごく良いことだと思う。

大師地区では、子ども育成連絡協議会というものも、実現した。当初から、縦割り行政に対して、横のつながりは大事だということで、各種団体についても、横のつながりを密接にしようということから発して、出来上がったものである。区民会議が良かったのは、発案して、実現させるということに、大きな意義があったのだと思う。

これから、新しい形態になると思うが、どこが責任をもって、それを支えていくのか。どこがコーディネートしていくのかを具体的に考えていく必要がある。言った意見を言いっ放しにするのでは意味がないので、言った意見を拾い上げて、それを実現させるために、どこが支えていくのか。

(市民文化局区政推進課)

区民会議は、自治基本条例の中では、区の中に入っていて、形でいえば、最終的には区長が責任を持つが、そういった形式的な話ではなく、職員がどうやって対応して、実現に

向けてやれるのかを考えながら、肝に銘じてやっていきたい。

- (8) 区民会議の改善点を打ち出して、新しいものを作ろうとしている気がしているが、今までの区民会議は、それなりに良かったのではないかと感じている。これまでの区民会議は、職員が事務局を務めて、ルールに乗ったやり方で運営されてきたが、これからは、附属機関でなくなったことで、職員の関与は薄くなるのか。市民創発で、区民が運営していくのか。先ほどのSDCの説明でもあったが、役所の距離感が変わることを意図しているという理解でよいか。

また、予算的にはどうなるのか。区民会議は有償であったから、出席率が高かった部分もあるが、そこが触れられていない。

- (9) SDCについて、今までの区民会議は行政がいたので、ダイレクトに伝わるが、SDCができれば、フィルターみたいになってしまって、本当にダイレクトに伝わるのか。

外国人について、触れられていない。また、SDCについては、情報量が多く、もっと明確にしてもらいたい。

(市民文化局区政推進課)

(8)(9)について、コメントをしたい。

区における行政への参加は、これまでどおり、行政が担っていく。一方で、宮前区では、市民が事務局に入っても良いのではないかという意見もあった。

市民創発というのは、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の中で、対話によって、新しい価値を創造していくイメージを大事にしていくということで考えているので、そのキーワードを使っている。

市民活動支援指針の中で、中間支援というのは、できれば独立していた方が良いというのが議論されてきた。だからこそ、市民活動センターは市とは別に運営している。SDCも、行政の一部局ではなくて、自主運営が望ましいのではないかということで、方向性の1つと考えている。SDCについては、同時並行して取組を進めているところである。参加の場よりも、市民よりのものを作っていこうとしている。

予算については、会議に出て、1回くらいというのはまだ決めていない。基本は、無償を考えているが、無作為抽出などで、普段は来ない方に手上げで来てもらう時などに、謝礼を払うというような考えもあるので、やり方によって、有償ということをきっかけにして来てもらうことも、場によって考えていきたい。

- (10) 区民会議は、行政的な形で難しさがあつた。また、資料作成などを区役所に頼った部分がある。ただし、参加したことで、町内会や民生委員など、色々な人に出会えてよかった。フィールドワークをやったが、それもすごく良かった。提言して、その後の続きをどうしていくかが難しいところである。

(市民文化局区政推進課)

継続して参加していただく時に、これまでは区民会議という枠があつたから良い部分と、その枠がないからこそ難しい部分がある。1つのやり方だと難しくなるので、検討すべき課

題に応じて、やり方は工夫していきたい。

- (11) 区民会議のテーマは継続しているものがあり、4期でできなかったが、5期でできたということがあった。なぜそれができたかというと、区民会議に区役所内の各部署が参加していたので、生の声が届いていた部分もある。

SDCを作るにあたって、市民の皆さんに任せるといことで、行政からの丸投げが多い。住みやすいまちづくりにするために、皆で意見を出し合って、もっと練らないといけないと思う。

- (12) 地域包括ケアの共助の精神の流れが、SDCに似ている。しっかりと共助のあるべき姿が出てくると良いと思う。

(市民文化局区政推進課)

(11)(12)について、コメントさせていただく。

協力をしていただけるといことなので、行政も協力を引き出せるように、もう少し意見交換できる場を作っていきたい。SDCと新しい参加の場が、ごちゃごちゃになってきているが、いただいた意見を整理しながら、進めていきたい。